

埼玉県
草加市

多様な主体が参画する
まちづくりによる
課題解決

4 国・地域・産業
の連携
5 女性活躍
推進
6 高齢者
社会
12 子育て
支援
17 防災・
安全

人口 251,219人 面積 27.46 km²

都市の特長

東京都に通勤・通学する市民が多く、ベッドタウンとして発展した。江戸時代は日光街道の宿場町である草加宿として栄えた。旧日光街道の松並木である草加松原や、草加せんべい・皮革製品・本染め等の伝統産業が有名である。

草加市
SOKA CITY

草加せんべい

大人から子どもへ
受け継ぐパートナー
シップのまちづくり

草加市は東京都への通勤者が多い住宅都市であり、地域経済循環率が低いことや、身近な自然環境が減少していることが課題である。そこで、子どもから大人まで多様な主体でまちづくりを行い、地域課題の解決を図る。子どもにもまちづくりの場に関わることを促すことで、まちへの愛着心や地域への誇りを育んでいく。

01 まちのヒーローアカデミー
(アントレプレナーシップ教室)

子どもたちが、まちの持続発展に取り組む「輝く大人」や地域と関わりながら、力強く未来を生き抜くための創造力を育む教室を開催する。

この教室では、座学だけでなくフィールドワークや参加する子ども同士の話し合う場を設け、「経済」・「社会」・「環境」の三つの側面を軸にまちの課題解決に向けたアイデアを発表し、実践する。このプロセスを経て自己肯定感や自己有用感を高め、地域が直面する課題の解決に失敗をおそれず取り組む「まちのヒーロー」へ成長することを目指す。

座学以外もい
創造力を育む




02 未来への森モデル事業

身近なみどりを次世代に継承する試みとして、土地所有者と市民緑地契約を取り交わし、木道やベンチなどを整備し、自然環境について学ぶ場など、みどりを身近に感じることが出来る環境を創出する。

地域に残る身近なみどりを市民共有の財産として、子どもたちをはじめとする、市民の自然環境学習の場とすることで、身近な場所で自然環境が有する多様な機能の学びを実現する。

子どもだちに自然環境を
学ぶ森を用意




草加松原を観賞する
和舟の舟行



特産品の皮革製品



03 草加国際村一番地 国際交流フェスティバル

料理を通じた国際交流



外国籍市民が増加傾向にある本市において、国際理解の推進は市民同士のパートナーシップ構築のために重要である。本取組は、草加市国際交流協会と市内に位置する獨協大学が共同で開催しており、平成16年から続いている。外国の料理や民芸品の販売、音楽やダンス等のプログラムによって日本国籍の市民と外国籍市民が触れ合う機会となっており、国際理解を深め、地域の中に国際的なパートナーシップを築く土台となっている。

各取組の詳細はこちら

取組 01

取組 03

インタビュー Interview

01 主体的にまちづくりに参画する「まちのヒーロー」を育成



庁内で所属横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、市内事業者・団体・大学と連携し、「まちのヒーローアカデミー」を設立しました。

子どもたちがまちづくりの主役として活躍し、他の子どもたちにとって憧れの存在「まちのヒーロー」として成長できるよう願いを込めて名づけました。

子どもたちが自身を誇らしく感じながら成長し、やがて主体的にまちづくりに参画することを期待しています。

草加市 総合政策部 総合政策課
主任 日高 恵 さん

葛西用水の桜並木


02 子どもが自分たちのやりたいことに自発的に臨めるように



2018年に子連れで働けるシェアアトリエつなぐばをオープンし、地域とのつながりと暮らしに根ざした活動を軸に建築、古材利活用、グラフィック、DIY賃貸などを展開しています。草加市と協力し、地域で利用されなくなった空き家・食材の活用に取り組んでいます。

今後は草加市と協力して、子どもが自分たちのやりたいことに自発的に臨めるようにできる気持ちを養える講座を開催し、地域に愛着と誇りをもてる暮らしづくりに取り組んでいきたいです。

つなぐば家守舎株式会社
(左) 取締役 松村 美乃里 さん
(右) 代表取締役 小嶋 直 さん

今後の展望

大人がこれまで取り組んできた経済、社会、環境に繋がる多様なまちづくりの想いを次世代へ受け継いでいく。さまざまな学びの場を通して、自ら考え行動する力を身につけた子どもたちが、まちづくりの主役として活躍する姿を期待する。さらに、成長する姿が次の世代をも惹きつけ、人を育てる循環が生まれるよう、地域一丸となって各取組を推進していく。

そのほかの
取り組み

子どもまんなか そうか

福祉プラスのまちづくり

そうか生きもの調査

すべての子どもが、草加市の未来を創る大切な主人公という考えの下、地域全体が連携し、積極的にこどもの声に耳を傾け政策に反映させていく取組。



福祉制度の枠組みにとらわれず、まちづくりの視点を加味し、「だれもが幸せな」あしたの暮らしとフクシのカタチを目指す取組。



市民が「生きもの調査員」となって、市内に生息・生育する動植物について、学びながら守る生物多様性保全の取組。

